

2023年6月6日

各位

共和メディカル株式会社
代表取締役 杉浦万正

国立大学法人 大阪大学医学系研究科と共和メディカル株式会社、共同研究契約を締結

国立大学法人 大阪大学医学系研究科と共和メディカル株式会社（以下、共和メディカル）は、『高齢者における Epigenetic Aging Clock の有用性に関するパイロット研究』について共同研究契約を締結しました。

この研究では、年齢と性別を一致させたフレイル高齢者と健常高齢者の血液検体を用いて Epigenetic Aging Clock ※1 を計測し、我が国におけるフレイル高齢者において、健常高齢者よりも Epigenetic Aging Clock の計測値が高いことを探索的に確認することを目的とします。

共和メディカルは、『健康ルネッサンス』の理念に基づき、高齢社会において健康的な生活を送るために、疾患の早期発見や予防に向けた研究開発に貢献したいと考えています。今回の共同研究によって、フレイルに対する新たなバイオマーカーの有効性が検証され、将来的には加齢に伴う疾患の予防や治療の検討に役立てることができることを期待しています。

そして、本共同研究を通じて、高齢者の健康寿命の延伸や QOL（生活の質）の向上に資する新たな知見を発見し、高齢者医療の発展に向けた新たな取り組みの一助となることを期待しています。今後ともご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

※1：Epigenetic Aging Clock とは、表現型（形質）に影響を与える遺伝子における化学修飾（エピジェネティックな修飾）のパターンの変化をもとに、個体の年齢を推定することができる手法の一つです。この手法は、従来の生体年齢評価方法に比べて高い精度で年齢を推定することができるとして、生体年齢の指標として注目されています。

具体的手法の一つとして、遺伝子の DNA 上にあるメチル基（CH3 基）などのエピジェネティックな修飾のパターンを解析することで、その個体の年齢を推定します。この修飾のパターンは、個体の生活環境や生活習慣、遺伝的な要因などによって変化すると考えられていて、Epigenetic Aging Clock による年齢の推定には、これらの要因が考慮されると推察されます。また、Epigenetic Aging Clock は、健康管理や医療の分野で活用が期待されています。例えば、この手法を用いて個人の生体年齢を推定することで、加齢に伴う疾

患のリスク評価、予防や治療のアプローチ策定、疾患における治療効果の評価、新しい医薬品の開発などにも応用されていく可能性があると言われています。

以上